平成二十四年大村町恵比須六月燈

大村町通り会

「劇」 座頭市

《キャスト》

座頭市　正敏
竜司（百姓）　進太
玄吉（竜司の父）　秀郎
天道組
組長　天道　一幸
用心棒　千　光男
若頭　十蔵　淑忠
子分①　秀太郎
子分②　幸弘

賭場
子分①　一博
子分②　光治
子分③　博紀
客①　和敬
客②　大園

《大道具など》

金子入りの袋、証文、仕込み杖（1）、刀（9）、かつら、棒きれ、
賭場の掛札
バックの絵（博打場、天道組屋敷前）、座頭市テーマソング

（テーマソングを流す）

～　幕　前　～

市　（杖をついてヨロヨロと花道から傷をいたわるように登場。幕前中央で倒れ込む）

竜司　（下手から慌てて駆け寄る。市を起こし揺さぶりながら）おい。あんた大丈夫かい。（まじまじと見て）市さん？あんた市さんじゃないか。

市　（力なくうなずく）

竜司　久し振りだな。いってえどうしたってんだ。こんな傷して。取り敢えず俺ん家へ行こう。（市に肩を貸して幕間中央から消える）

～　第　一　幕　～

（竜司の家。市は隅に寝かされている。そこへ玄吉が下手から帰ってくる）

玄吉　（寝ている市を見ながら）何でこいつがここに居るんだよ。疫病神を連れてくるんじゃないよ！

竜司　しようがないだろう。そのまま道端に寝かせておけって言うのかよ。

玄吉　明日、飯でも食わせたら、とっとと出てってもらえ。いいな。

竜司　（ふてくされて寝る）親父・・・。

（照明を落とし、一旦幕。すぐに幕を開ける）

～　一旦　幕　～　～すぐに開ける～

（天道組、寝込みを襲う。子分①、子分②、十蔵、千の順でズカズカと入ってくる）

子分①　邪魔するぜい。

子分②　漁師の朝は、早えもんと決まってるんじゃ、ねえのかい。

竜司　なんだおめえらは！

子分①　俺たちゃな、天道組のもんだ。今日からここの縄張り、俺たち天道組が取り仕切ることになった。

子分②　（証文を見せながら）ほうれ、証文もこの通り。

十蔵　解ってんだろう。三両だ。三日以内に天道組まで持ってこい。

玄吉　そんなもん無理だ。漁師と言ったって、細々とやっているだけじゃ。三日以内に三両なんて、とても無理じゃ。

子分①　何だ、てめえ。俺たち天道組の言うことが聞けねえってのか。あぁ？

竜司　（玄吉の胸ぐらを掴んですごむ）いい加減にしねえか。わし等は約束通り、島地に返している。それで文句はないはずだ。

十蔵　しかし、その島地の証文が俺たちに渡ったんだ。もうここは島地のもんじゃねえ。天道組の縄張りになっちまったんだよ。

子分②　ほうらこの通り。（再び証文を見せる）

竜司　天道組だか何だか知らねえが、おめえ達に返す義理はねえ。

子分②　何だと？それが嫌なら貧乏な漁師なんか止めてうちにこいよ。

子分①　若えのに腐っちまうよ。（竜司の臭いを嗅ぐ）　もう臭えや。

竜司　（頭にきて子分①に殴りかかろうとする）

市　（そこに市が割って入る）止めましょうよ。（と言って子分①を突き飛ばす）

子分②　何だおめえは。生意気なことをするじゃねえか。（子分①の前に出る）

市　すいやせん。すいやせん。（頭を二度三度下げる）

子分①　てめえ、この野郎。（市の背中を激しく殴る）

市　（一瞬痛そうな顔をするが殴られた辺りを抑えながら）ちょうど、このあたりがかゆかったんでさぁ。（とボリボリ掻く）

竜司　かゆいわけないじゃないか。あんなに傷だらけだったのに。（市のそばに寄ろうとするが子分①にさえぎられる）

子分①　何だと、こらぁ。（子分②と一緒に市を殴る）

竜司　市さん。（と言って止めに入ろうとするが、十蔵に止められる）

千　（市は子分①②にボコボコにされる）楽にさせてやろうじゃないか。（と刀に手をかける）

市　（市は倒れ込みながら仕込み杖を千の腕に押し当てる）
ぶっそうなもん、持ち出すもんじゃありませんぜ。
千　（一瞬たじろぎながら）お主、ただもんじゃないな。（後ずさりする）
十蔵　証文がある限り、けえしてもらうぜ。利子もちゃ～んとな。
竜司　わしらはほとんど返している。あと少しだけなんだ。
十蔵　島地は島地。うちはうちだ。
子分②　（刀を竜司と玄吉に振りかざし、脅す）
三両、三日以内だぞ。いいな。
竜司　（天道組、威張って引き上げる）
市　市さん、大丈夫かい。
へえ。何とか（頭を二度三度下げる）

～　幕　～

～　第　二　幕　～　賭場

賭場子分①　さぁ～いこう。ツボ。
賭場子分②　どちらさんも。どちらさんも。ピンゾロの丁かぶります。
（サイコロをツボに入れる）
賭場子分①　さぁー入りました。張った張った。
客①　丁だ！
賭場子分①　さぁー。丁かたでた。丁かたでた。さぁー半かたないか。半かたないか。
客②　丁だ。
賭場子分①　さぁー半かたないか。半かたないか。
市　半。
賭場子分②　丁半揃いやした。（ツボを開けて）三六の半！
客①　あー。
客②　オー。
（駒札を市の前に全部並べる）

賭場子分①　さぁ～次いこう。ツボ。

賭場子分②　どちらさんも。どちらさんも。三六の半かぶります。

市　（立ち上がり帰り支度をする）

賭場子分③　三両と二分、もうちょっと遊んでいきゃいいのに。

市　（袋に入れて市に金を渡す）いや～あっしは、博打には目がないもんでね。今日はこの辺でおいとまを。

賭場子分③　何言ってやがんだい。はなっから目は見えねえくせに。

市　ハッハッハッハッは。そうでござんしたね。（二度三度頭を下げ、杖をつきながら、博打場を去る）

～　幕　～

～　幕前　～

市　（懐から金子の袋を取り出し）助けて頂いたお礼です。

竜司　すまねえ。すまねえ。なんてお礼を言ったらいいか。

市　いやいや。（首を振りながら幕前中央から消える）

～　第　三　幕　～天道組屋敷前

（竜司と玄吉が下手から登場）

竜司　ここに三両ある。さあ、証文をけえしてくれ。

十蔵　（袋から金子を取り出し確認して）まぁ慌てるな。ところでな。俺たちゃな、ここの港を大きくして、御法度の密貿易をやるのよ。品物を収める、でっけえ藏をズアーッと建てるんだ。どうだ、おめえも一口乗らねえか。

竜司　漁師を馬鹿にするな。そんなことしたらお上にお縄になるじゃないか。

十蔵　どんなに粋がって、お上なんか当てにしたって、無駄だぜ。ここはもう、天道組の村だからな。

玄吉　そんなことは知らねえ。証文を返してくれ。

（やや間をおいて）

十蔵　おめえんとこにいるのは座頭市だろう？

玄吉　そんな奴はいねえ。

十蔵　嘘つけ！。（怒鳴る。その声を聞いて子分①、子分②がやってくる。

回りには賭場の客達が働かされている）

十蔵　どうだ。あいつらみたいにここで働け。ちっぽけな漁師やってもしようがないだろう。

竜司　ちっぽけと言われようと何だろうと、俺はおとっつぁんの後を引き継いで、漁師に命をかけるんだ。

玄吉　よういった、竜司。（竜司のところに駆け寄り、振り向きざま）

証文を返せ。

十蔵　（刀を抜き竜司の足を突き刺す）

しゃらくせえ。あんまなんかばうからこんなことになるんじゃ。

証文なんてほーら。（と言って見せた後、懐にしまい込む）

三両払ったぐらいでいい気になるな。さー帰れ。仕事の邪魔だ。

玄吉　（落ちていた棒きれで子分②に殴りかかる）

（子分②軽くかわして、子分①と一緒に玄吉をボコボコにする）

市　（玄吉と竜司の間に割って入ってきて）

おやっさん、竜司さん。どうかされましたか。

十蔵　またてめえか。てめえもボコボコにしてやろうか。

天道　（天道、千を伴い登場）騒々しいね'。一体何事だい。

竜司　天道〜〜〜。（叫びながら棒きれで天道に殴りかかる）

千　（一刀のもとに竜司の背中を斬る）

市　竜司さん。（竜司を手探りで探し、抱きかかえる）

竜司　すまねえな、市さん。巻き込んじゃったな。（と言って死ぬ）

市　（スックと立ち、天道に向かって）
天道　こんな真っ当なかたぎ衆に手をかけるとは。許せねえ。
十蔵　なんだと～。あんまの分際で何を抜かす。
天道　親分、こいつは市ですぜ。こいつは、あの座頭市ですぜ。
何？座頭市だと？な～るほど。こいつをやれば箔がつくってもんだ。
おい、野郎ども。やれ。こいつを斬ってしまえ。（後ろに下がる）

～　殺　陣　～

○子分①、子分②、十蔵、一瞬のうちに居合い斬りで斬られる。
（市、刀身を鞘に収める）
○千、間合いを取り攻勢に出る。市がこけたところを千が斬りかかろうとするが、玄吉が捨て身で間に入り、市を守る。市はこの機を逃さず千を居合いで斬る。
市　（玄吉を抱きかかえながら）おやっさん。
市　（天道を見据えて）
俺たちゃな、御法度の裏街道を歩く渡世なんだぞ。それをてめえ達や、お天道様の下を、大手を振って歩きすぎたようだな。
○天道、観衆が拍手喝采するほど、メチャメチャに斬られる。
市　俺の行くところには、血が流れる。血が流れるところに、俺はたどり着く。りゅうさん、げんさん・・・・。俺はまた旅に出る・・・。
（テーマソングのかかる中、ゆっくりと歩く。照明を次第に絞る）

～　終　幕　～